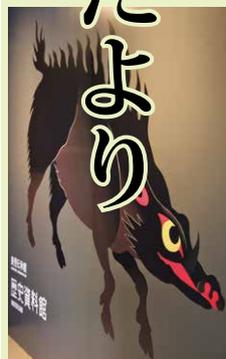


歴

史資料館だより



No.80
教育委員会生涯学習課
文化財グループ
(☎ 0296-20-6300)



干支から読み解く日本の文化

令和2年は干支で表すと庚子となり。庚は金の兄で、「かのえ」と読み、来年は金の弟で辛になります。これは、陰陽五行の考え方で、全ての物は木火土金水の五種類の元素と、その陰陽（ここでは兄と弟）で出来ているという思想によります。子、丑、寅と数えるので、子は最初になります。方角でいうと北、反対が午なので、南北線の子午線と呼びます。時刻でいうと夜中の0時、反対が午なので、昼の0時を正午と呼びます。



お正月というと、初詣をされる方も多いでしょう。常陸国一之宮で、真壁氏の氏神でもある鹿島神宮など大きな神社やお寺に出掛けるのも楽しみですが、地元の神社やお寺も訪れてみてはいかがでしょうか。

庚子は、音読みすると「こうし」になります。一文字目は甲、乙、丙、丁、戊、己、庚、辛、壬、癸の順番になるので、甲子も「こうし」です。大正13年が甲子の年で、甲子園球場が完成した年になります。

一文字目が5種類と陰陽2種類の組合せで10種類、それと十二支の組み合わせなので、10と12の最小公倍数、60で一周することになります。60年で暦が一周する、還暦ということです。

市指定文化財 今宮神社

昨年の11月21日に、桜川市の指定文化財が一つ増えました。岩瀬高校の北隣にある、今宮神社の本殿です。今宮神社は足利時代の創立とされ、菅田別命を祭神としています。全体に施された数多くの彫刻がとても見事で、腕利きの大工が関わっていることは推測されましたが、本殿の内部を調べたところ、大工をはじめとする職人たちが、建てられた年代が具体的に書かれていました。



▲今宮神社本殿

▲本殿脇障子の「李白観瀑」



それによると、現在の本殿は享保12年に着工、翌13年に完成し、大工棟梁が羽黒の桜井瀬兵衛政信、彫物大工が府中金丸町の岡野甚七、屋口藤九郎、色川藤兵衛、塗師屋が成田の藤五郎、石屋は信州の桐右衛門らであることが分かかります。甚七と藤九郎は江戸の無関円鉄の弟子で、雨引観音の東照山王社殿と同じ人物です。

羽黒の大工集団である桜井一門は、茨城県を中心に、成田山新勝寺三重塔など、国指定や県指定の神社仏閣を数多く手掛け、建築と彫刻の双方の質の高さで知られます。市内でも椎尾山薬王院や雨引観音、富谷観音、月山寺などの複数の建物を建てています。

この機会に神社やお寺の建物を見比べてみてはいかがでしょうか。

株式会社 さくらほーる 総合葬祭 こもり

家族葬

0120-44-4483

本社 / 〒309-1214 茨城県桜川市東桜川3-13 TEL.0296-75-4066 FAX.0296-75-2555

事前相談
受付中